

〈隷書〉

白玉飛泉
青松蔽日
一千仞雪
一林風

小畠秋聲先生書

(この課題で書体は自由。但し、この課題は一人一点のみとする)

半折作品は各課題ごとに横／＼に一枚ずつたんで提出ください。

〈楷書〉

白玉飛泉
青松蔽日
一千仞雪
一林風

吉田成美先生書

□ 白玉泉を飛す千仞の雪 青松日を蔽う一林の風 (李白良)

次号予告「對酒燭分花底夜 出簾香散竹間風」

〈行書〉

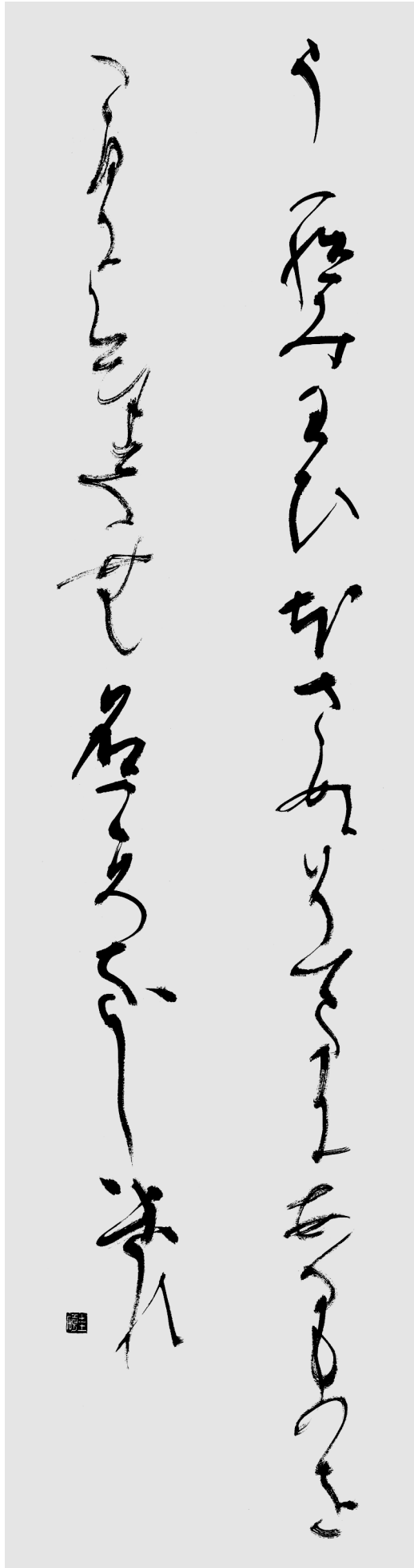
山本飛雲先生書



▽ 高い瀑布は白い玉を飛ばして雪のように、満林の清風は青い松が日を蔽う所に吹く。

条幅随意（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

舟尾圭碩先生書



□ う羅^らみ王^わひ 本^ほさぬそて多^た尔^に あるものを 名^なこそをし遣^けれ
うらみわひ ほさぬ袖^{そで}たに あるものを 恋^{こひ}にくちなむ 名^なこそをしけれ

△百人一首六十五▽

条幅随意（臨書）（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課題は一人一点のみとする）

清原大龍先生臨

牢籠多士太子洗馬
李綱直道正辭羽儀

▽ 温彦博碑

牢籠多士太子洗馬李綱直道正辭羽儀

条幅随意（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課題のいずれか一点のみとする）

吉田成堂先生書

鐵棒で青空を一回轉
かゝ威張って墜ちてゆく

□ 「帆柱山」 宗左近の詩 鉄棒で青空を一回轉したから威張って墜ちてゆく

△ 手本（課題例）にとらわれず意欲的な作品を期待します。▽

半折作品は各課題ごとに横に一枚ずつたんで提出ください。

条幅随意参考手本（半折½縦のみ） — 7月末日締切 —

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

□ 種田山頭火の句 鳴るは風鈴 この山里も 住みなれて

風鈴がなっている……放浪の俳人山頭火ならではの感性豊かな句。可読性のある線質の細太、文字の大小、墨の入れ方に気をつけ、三行目と名前の配慮に注意して書こう。



廣瀬蘇水先生書

条幅随意参考手本（半折½縦のみ） — 7月末日締切 —

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）



□ 肆^し 力^{りよく} 努力すること。一生懸命に精を出すこと。（後漢書）

春秋左氏伝に「肆^し筆^{ひつ}」という語がある。「筆を自由自在に使う」ことだが、いまだ筆に使われております。

井之上 南 岳 先 生 書

(この課題で書体は自由。但、この課目は一人一点とする)

□ 微雲は河漢に淡し（陳〈六朝〉徐陵）
かすかな雲が天の川にうつすらと懸かる。



次号予告「強行者有志」

吉田成美先生書

(この課題で書体は自由。但、この課目は一人一点とする)

□ 微雲は河漢に淡し（陳〈六朝〉徐陵）
かすかな雲が天の川にうつすらと懸かる。

微雲淡
河漢

成美
吉田

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

□ 獨見之明 獨見の明 (淮南子)
他人の見えないものを見る聡明さ。



次号予告「英氣動人」

渡 邊 大 嶽 先 生 書

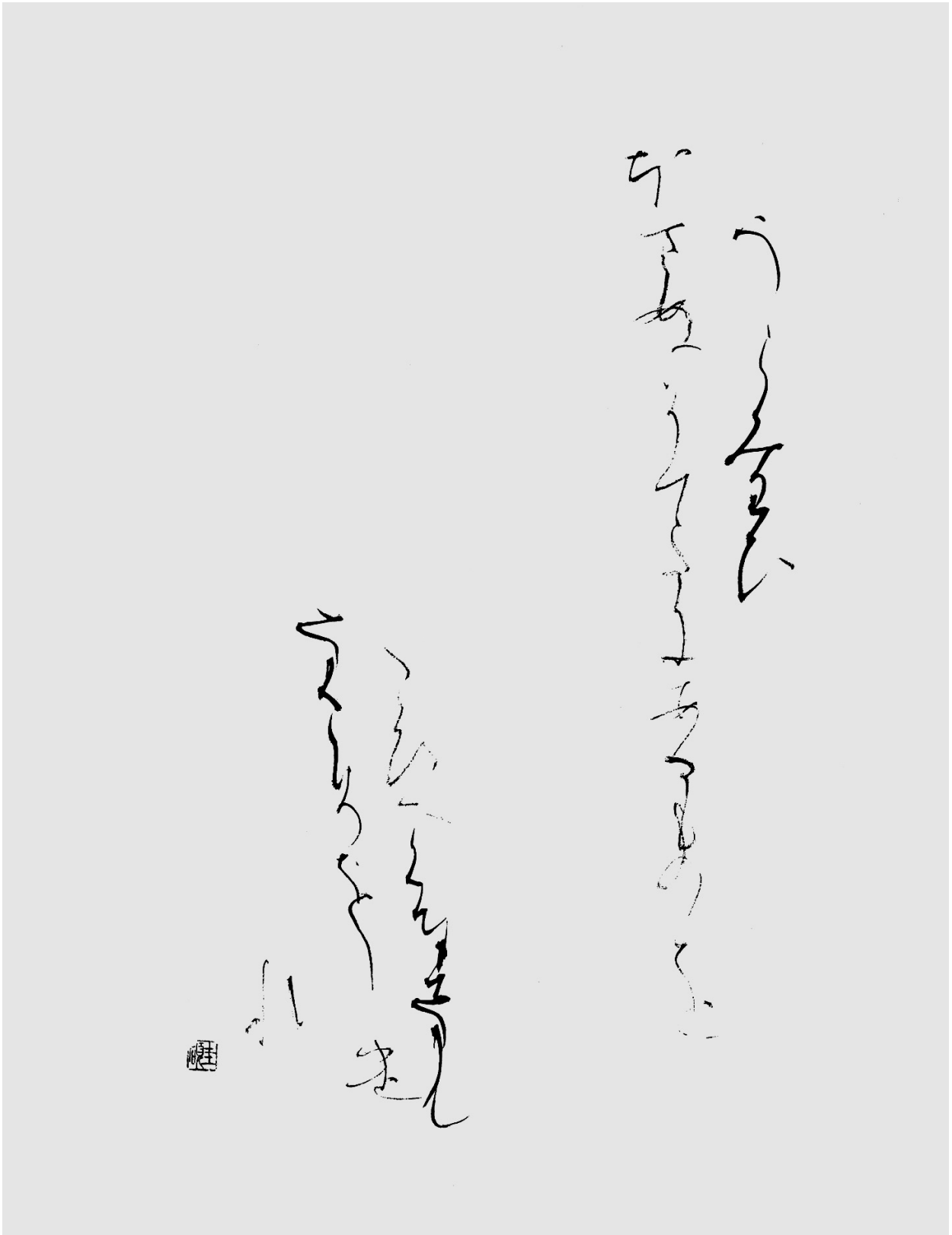
半紙随意参考手本 — 7月末日締切 —

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

△仮名▽

うらみわひ ほさぬ袖たに あるものを 恋にくちなむ 名こそをしけれ

□ うらみ王^わひ
本^はさぬそて多^たる
あるものを こひ^ににく^ちなむ
なこそをし^けれ



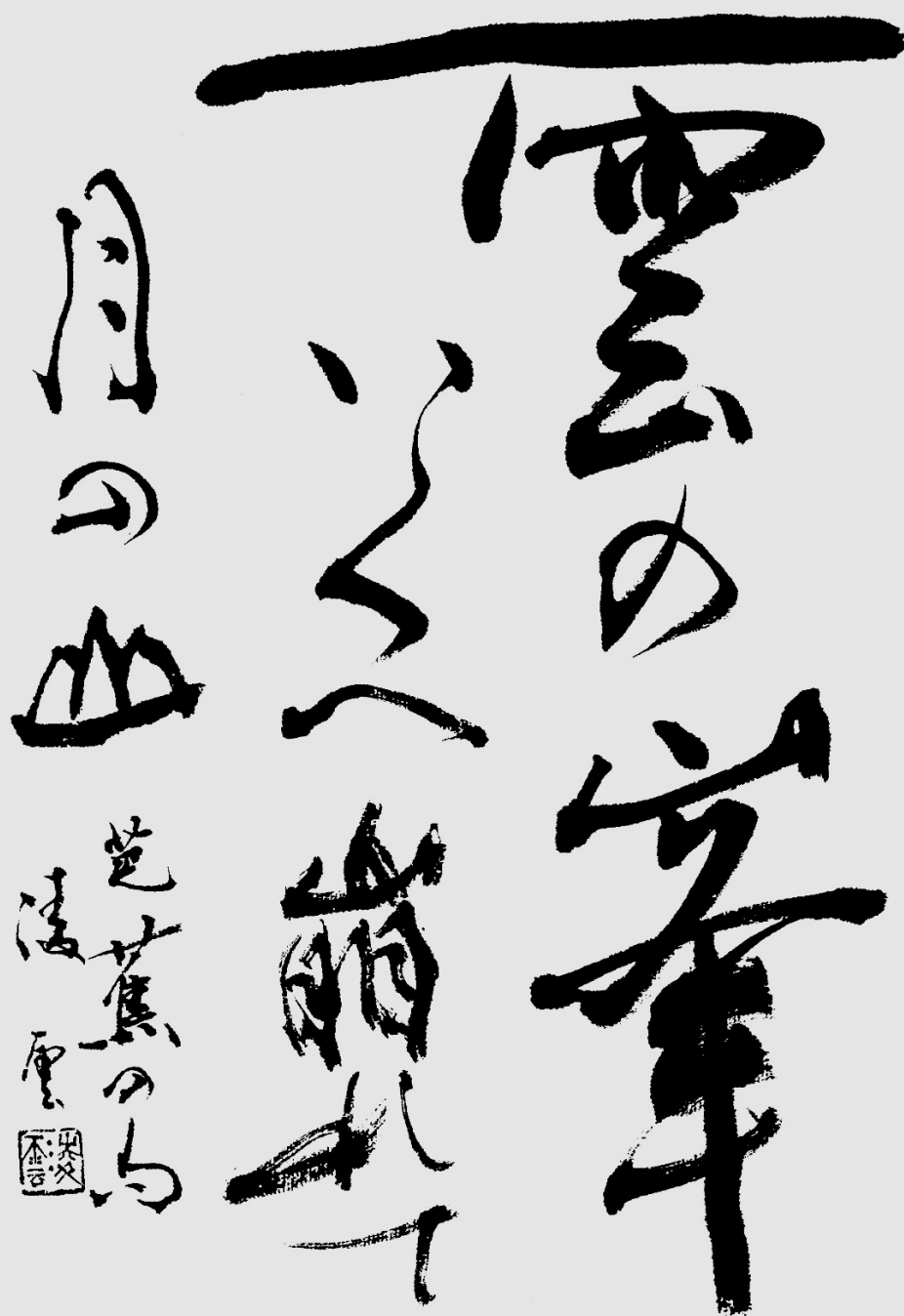
舟尾圭碩先生書

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

△詩文書▽

松尾芭蕉の句 雲の峯 いくへ崩れて 月の山

※出品券は、半紙をタテにした左下に貼って提出ください。(ヨコ作品の場合も半紙をタテにして同様に貼ってください)



樋口凌雲先生書

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目は一人一点とする）

△臨書▽

欧法の特徴を意識し、縦画・横画を伸びやかに、線にシャープさをだそう。



「垂紳鸞閣」

吉田成美先生臨

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

△実用書▽

野村 橋本 馬場 萩原 樋口 平野 藤井 古谷 別府 細田 松尾 宮崎

姓
号

細 田	藤 井	萩 原	野 村
松 尾	古 谷	樋 口	橋 本
宮 崎	別 府	平 野	馬 場

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

△手紙文▽

地球の長い営みから見れば 平均気温の四、五度の上昇など微々たる変化だと思いますが 人間はその対策に大慌てです ともあれ夏バテや熱中症に陥らないよう気をつけましょう

地球の長い営みから見れば平均気温
の四五度の上昇など微々たる変化だと
思いますが人間はその対策に大慌てです
ともあれ夏バテや熱中症に陥らない
よう気をつけましょう 後通

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目A・Bのいずれか一点のみとする)

書譜

△暮らしに役立つ書▽

暑さの一段と厳しくなってきましたが、
その後の過ごし方はいかがですか。
この度は、お心のもったお品をお贈りいただき、
ありがとうございます。我が家は、朝の食卓に
果物が欠かせませんので、早速今朝のテーブルに
並べました。珍しくぶどうの食感とさわやかな
甘みに、幸せな一日のスタートでした。
夏は、これから本番を迎えます。どうぞ、
皆様、ご自愛くださいませ。

野のある便箋に書いてみよう。

△ 26 cm × 18 cm ▽

紙質は自由。

- 夏の贈り物の季節となりましたので、お礼状の文章を書いてみました。「拝啓」から始め、内容を入れ替えたり、短くして一筆箋に書いたり、相手の方にあわせて、「心」を添えたいものです。

※ 本研究社にて「特選便箋」を発売しております。本誌裏面をご参照の上、ご利用ください。

兵 頭 白 慧 先 生 書

（この課題以外の語句のものもよい。但し、その学年にふさわしい語句が望ましい。）

空と大地

小学 4 年

木かけ

小学 3 年

ひまわり

小学 2 年

そら

ようねん・小学1年

あかね雲

中学 2・3 年

白夜の光

中学 1 年

夏の祭典

小学 6 年

平和な国

小学 5 年

秋 永 春 霞 先生 書

△条幅 1/4 四尺画仙紙半折 1/4 : 68 cm × 17・5 cm ▽

ようねん・小学一年

次号予告「こ め」

そら

□「そ」は二本の横線の長さのちがいに気をつけましょう。「ら」の「ハライ」はゆつくりと。

小学二年

次号予告「むぎのほ」

わひりま

□「ま」の「むすび」や「わ」「り」の二画目は、筆の軸だけをまわさないよう気をつけましょう。

坂 元 紫 香 先 生 書

小学三年

次号予告「茶 つみ」

木

□文字の布置に気をつけ、「左払い」「右払い」をゆつくりと伸びやかに書こう。

小学四年

次号予告「風 道」

大地

□「大」は、左右の「払い」を伸びやかに。「地」は、「偏」と「旁」のバランスに注意して書こう。

吉 田 成 美 先 生 書

小学 五年

次号予告「秋の夜長」

平和

□「平」は中心のたて画をまっすぐ、伸び伸びと。「和」は「口」の位置に気をつけて。

小学 六年

次号予告「天然肥料」

祭典

□「祭」は上部を大きめにし、中心に気をつけて。「典」は筆順に注意して書きましょう。

秋 永 春 霞 先 生 書

中学 一年

次号予告「人間の尊厳」

白夜

□楷書と行書の違いを意識しながら、点画の丸みや連続などを確かめて書きましょう。

中学二・三年

次号予告「人権尊重」(行書)

ねあ
雲か

□行書に調和する平仮名を理解し、文字の配列・配置に注意して書きましょう。

吉 田 成 美 先 生 書

小学二年

「まっすぐおろす」 「はねる」 「てんのむきにちゅういする」 「ひかり」 「いかり」	段 級	を	お	中	か
	氏 名				
		おい	よぎ	を	が
		出	大	み	や
		した	きな	ん	く
		た。	な	は	光
			魚		の

ようねん・小学一年

「むむむらーオを」	段 級	か	か	た	お
	氏 名				
		ら	たい	く	う
		を		ち	む
				ば	は
		わ	た	し	
		ります	ね	で	ま
			の		が
					つ

坂元紫香先生書

小学四年

「つぎ出ない」「間をあける」 「はねる」 「取、ノ必、必」 「西、西、要」	段 級	出来事や事がらを正しく
	氏 名	
		つたえるためには、取材を
		して、事実を正かくにとら
		える必要があります。

小学三年

「はろう」「間をあける」 「はねる」 「上につぎ出ない」 「はねる」 「のむきにちゅういする」 「あつ」	段 級	通学路や学校、家の中な
	氏 名	
		どから、記号を集め、見つ
		けた記号をノートやカ
		ードにきろくしよう。

坂元紫香先生書

小学六年

ハ 戸 声 康 康 劇
 ノ 下 狼 独 独
 ハ 牛 特 特

段 級	氏 名
のまままで、独特の調子があります。 ト」といいます。せりふは昔の言葉 す。主役を「シテ」、その相手役を「ア た劇で、能ぶ台の上で演じられま 狂言は、せりふやしぐさを主とし	

小学五年

ハ 戸 声 康 康 劇
 ノ 下 狼 独 独
 ハ 牛 特 特

段 級	氏 名
アンケートの結果について意 見や解説をいただくものだっ たので、準備に時間はかからな かった。インタビューは、予定の 時間内に終わることができた。	

小 畠 秋 聲 先 生 書

一 般 (A)

(この課題はA・Bいずれか一点のみとする)

段 級	氏 名
夏の夕暮れには、二つの恋星が天頂に 清明な光を放ち始める。空を仰ぐ。天 の川にかかる白鳥座が羽を広げる。 万葉の時代は、ひめ星のもとに急ぐひ こ星の舟の音が聞こえたことだろう。	

※142%拡大で原寸大になります。

中 学

ハ 戸 声 康 康 劇
 ノ 下 狼 独 独
 ハ 牛 特 特

段 級	氏 名
授業に来てみると、みんなのかいた 絵が壁にはられていた。毎日、その 数は増えていった。みんなが作った 彫刻の一つ一つに、全員で意見を言 い合い、ウィルスンさんも加わった。	

小 畠 秋 聲 先 生 書